

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	群馬医療福祉大学短期大学部
設置者名	学校法人 昌賢学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
短期大学部	医療福祉学科介護福祉コース	夜・通信		5	41	46	7	
	医療福祉学科福祉総合コース	夜・通信			53	58	7	
短期大学部	医療福祉学科医療事務・秘書コース	夜・通信		5	23	28	7	
	介護福祉学科介護福祉士実践コース	夜・通信			39	44	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html">http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	群馬医療福祉大学短期大学部
設置者名	学校法人 昌賢学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<a href="http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html">http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤 豊田 正浩	群馬県済生会老人保健 施設あずま荘事務長	平成 29 年 10 月 16 日 ～平成 32 年 6 月 20 日	教育課程の運営に 関すること 教職員等の人的事 項に関すること
非常勤 藤井 祐順	天台宗丘林山浄土院華 蔵寺住職	平成 29 年 6 月 21 日～平 成 32 年 6 月 20 日	組織運営等の事項 に関すること 施設設備等の物的 事項に関すること
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	群馬医療福祉大学短期大学部
設置者名	学校法人 昌賢学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(計画の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では、教務カリキュラム委員会を中心に授業計画(シラバス)の作成に向けた取り組みを行っている。シラバス作成要領を作成し、当該年度の授業計画(シラバス)作成のガイドラインとして、全ての授業担当教員を対象にFD(執筆に関する説明会)を実施し、徹底を図っている。</p> <p>各授業教員の授業計画(シラバス)の執筆後は、教育の質向上への取り組みの一環として、教務カリキュラム委員会による授業計画(シラバス)のチェックを実施し、このチェックの結果、提出後に記載内容の再検討を要する場合もある。</p> <p>授業計画(シラバス)は、WEBポータルシステムを使用して学生へ周知している。主な目的は、学生の履修選択の支援及び毎日の授業の予習、復習事項の確認、成績評価等の確認・周知が主な目的である。</p> <p>以下は授業計画(シラバス)の作成における基本的情報である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【科目名 担当教員(単位認定者)】</li> <li>2. 【単位数(時間数)】 1 単位あたり、講義科目は 15 時間、演習科目は 30 時間、実習科目は 45 時間で計算し記入する。</li> <li>3. 【履修要件】 各課程にてカリキュラム・マップや授業科目一覧を参照する。事前に履修しておくことが望ましい科目が明らかな場合は、年次配当等を考慮して記入する。</li> <li>4. 【免許等指定科目】 当該科目が国家試験の受験資格や資格要件として必須の場合、その旨を記載する。</li> <li>5. 【キーワード】 学生が授業内容の概略をつかみやすくなるよう、授業で扱うトピックから抽出する。授業科目名や単元名そのものよりも、授業終了後に説明できることや実践できることが望ましい概念を中心に設定する。</li> </ol>

6. 【授業の目的・到達目標】

(授業の目的) と (到達目標) の見出しを用いて明確に記載する。

(授業の目的) は学生が授業終了後に「こんなことができる」というイメージを抱けるよう、学生を主語にして現実的な目標や、その過程(授業内容)を記入する。各課程でディプロマ・ポリシーと整合的であるように注意する。

(到達目標)

授業終了段階で、できるようになって欲しい行動を「○○できる」という形式で学生を主語にして記入する。授業の目的と対応すること、なるべく観察可能な行動で表現することに注意する。行動を表す動詞は、「知識」「態度」「技能」の三領域を想定するとわかりやすくなる。

7. 【授業の概要】

「授業の目的」「到達目標」に対応させ、学生が「何を学ぶのか」について分かりやすくなるよう、具体的に記入する。下記の「授業計画」との対応にも注意する。

8. 【受講生に関わる情報および受講のルール】

受講上の注意点を記入する。資料の配布方法や課題提出のルールなどについて具体的に明示する。

例1) 資料の取り扱いの明示など。

「授業で配布する資料の予備は保管しませんので、出席者からコピーをしてください」など

例2) 「態度や服装」についての具体的注意、決まりの明示など。

「授業中携帯電話の電源を切ること」「私語を慎むこと」など。

授業中に教員が重視するルールをわかりやすく記入する。学生以外(保護者や第三者)が見ても納得できるよう、内容の合理性には注意する。

9. 【毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法】

学習の進捗や質問を受け付けるツールとして、コメントカード等を活用する。本欄には、コメントカード方式、シャトルカード方式、ICT利用(WEBフォームやメールなど)、その他から選択し、レ点や■(黒四角)で採用する方式が分かるよう記入する。

コメントカード、シャトルカードは、様式が教職員サイトに掲載されているので参考にする。ICTツールを利用する場合は、全ての学生が利用可能でない場合の手立てを必ず用意する。なお、その他を選択する場合は、学生とのやりとりによどのような方法を用いるかを必ず記入する。

10. 【授業時間外学習にかかわる情報】

単位制度の実質化を保障するため「授業時間外の学習」を学生に課すことを前提に授業を組み立てる。その際の具体的で詳細な学習支援情報は、シラバスに記載する。この欄には、授業を行う上で教員が重視する授業時間外学習の概略をできるだけ具体的に書くようにする。

例) 「シラバスで指示された宿題を、指示された日程までに完成することを求める」

「毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること」

「授業の要約を小レポートとして次回授業時に提出すること」

「2回に1回の割合で、ボーナス課題を出す」など。

11. 【オフィスアワー】

学生への学習支援の一環として、オフィスアワーを時間帯(10:00~12:00など)で記入する。

オフィスアワーとは、学生が事前の約束なしでも研究室を訪問できる時間帯のことである。いつでも構わないという書き方ではなく、学生にとって分かりやすい表現で「○曜日○時～○時」など具体的に記入する。

#### 12. 【評価方法】

「到達目標」を意識した上で評価に関わる概略的な情報を記入する。詳細はシラバスへ記載し授業中に説明する。ただし「評価の要件」「評価の方法」「評価の基準」「評価の配分割合」などは必ず記載する。出席を点数化する表現（出席：30%など）や単一の尺度で100%は不適切な内容と判断されます（定期試験100% など）。必ず、複数の課題で学生の到達度を評価するよう設定する。

#### 13. 【教科書 参考書】

教科書は、受講するにあたって購入が必要であるものを指定する。情報は「著者」「書名」「出版社」「出版年」の順に記入する。

参考書は、受講するにあたって必ずしも購入は必要ではないものの、授業の理解度を深めるために有用な書籍を指定する。情報は「著者」「書名」「出版社」「出版年」の順に記入する。

授業計画書の公表方法

<http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

教育上の効果を測定するために、本学では授業における学生の成績評価方法として主として以下の4つを採用している。

① 平常試験（授業時の小テストやミニレポートを含む）

② 定期試験

③ レポート

④ 口頭試問・実技による評価を設定し、学生の成績に応じた評価の仕方を工夫している。

これらの評価については、シラバスに評価方法や評価割合、基準等を明示することとしている。なお、学生が授業の3分の1以上を欠席すると単位認定試験の受験資格がなくなることについては、全学的に教員、学生共に徹底させている。

学生にあらかじめシラバスで示す客観的な方法・基準は以下の通りである。

#### 【成績評価の方法・基準（厳格かつ適正な評価を通じた履修の認定）】

・到達目標に対しての学修成果をどのように判断するのか、評価項目と評価比率を記入し、評価の基準（どのように学習成果として評価するのか）については、補足欄を使用して客観的かつできるだけ具体的に記入するように示している。

・本学の成績評価は平常試験、定期試験、レポート、口頭試問・実技、また学習態度・出席状況等を加味して評価するので、評価比率を記入して明示している。授業内外における主体的な取り組み等を「学習に取り組む姿勢・意欲」として成績評価に含める場合は、補足欄を使用し「成績評価の際に着目する点」および「どのように評価するのか」等について具体的に記入している。

・試験の実施にあたっては、試験が個々の生徒の到達度の評価でもあることを鑑み、定期試験だけで評定するのではなく、生徒の中間時点での到達度も把握しながら授業を展開するように取り組んでいる。

・課題（試験やレポート等）のフィードバックについては、学生がそれまでの学修成果を把握し、主体的に学修意欲を高められるように、授業計画（シラバス）内にはその内容を可能な範囲で示している。

例：平常テスト（採点した答案を授業内で返却する、解説を行う、回答を配布する、など）

レポート、課題等（採点して返却する、添削する、授業内で総評を述べる、など）としている。

・欠席者に対する授業時間数の補填方法等については、本学では所定の授業時間数を満たした者に成績評価を行っているので、授業への出席は成績評価の前提となる。授業を欠席した場合には、どのように補習等を行い、授業時間数を満たさせるのか記入している。

・成績評価は100点満点で行い、学則第38条により、授業科目の試験の成績は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点～79点)・C(60点～69点)・D(59点以下)の5種の評語をもって表し、S・A・B・Cを合格とし、Dを不合格としている。

### 3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

公平性と透明性を確保し、全学的に統一した基準で、かつ国際的に通用する基準を用いるため、本学ではGPA(Grade Point Average)制度を用いた成績評価を行っている。修学指導や優秀な学生の表彰等に利用し、さらに、学生自身にGPA値を通知することによって、それまでの履修単位数という量的評価を、履修内容(成績)という質的評価への意識転換を図ることによる教育効果の向上を目指している。以下GPA等の客観的な指標の具体的な内容、実施状況は以下の通りである。

「群馬医療福祉大学短期大学部学則」第30条に基づき、群馬医療福祉大学短期大学部(本学)における評価の基準および客観的かつ厳正な成績評価を目的とするGrade Point Average(以下、GPA)等、評価に関わる事項について定められている。この規定では、GPAの運用にあたり、評価の適切性を示すものである。

(成績評価)

学習の評価は、秀、優、良、可および不可とし、秀、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。合格した場合は、その授業科目に所定の単位とグレードポイントを与える。表示は文字(S=秀、A=優、B=良、C=可、P=合格、D=不可)となる。

(評価の基準)

判定	成績表示	成績評価基準	GP	成績評価内容
合格	S	90 ~ 100 点	4.0	特に優れた成績
	A	80 ~ 89 点	3.0	優れた成績
	B	70 ~ 79 点	2.0	妥当と認められる成績
	C	60 ~ 69 点	1.0	合格と認められる成績
	P	—	3.0	合格と認められる成績 (合格 / 不合格科目)
不合格	D	59 点以下	0.0	合格と認められる成績に達していない
		試験欠席	0.0	試験等を欠席
		失格	0.0	出席回数が基準を満たしていない

(対象科目)

- ① 履修申告・登録した授業科目すべてを対象とする
- ② 編入等に関する認定科目は GPA の対象科目より除外する

(算出方法)

GPA の算出は、「学期ごと」および「通算」で行う。

[期ごとの GPA 算出方法]

$$\frac{\text{(当該学期で履修登録した GPA 対象科目の GP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{当該学期で履修登録した GPA 対象科目の単位数の合計}}$$

- ① GPA は小数点第 3 位を四捨五入し、小数点 2 位までを表示する。
- ② GPA 対象科目で D (不可) は母数に含む。
- ③ 通年科目は後期に含め GPA を算出する。
- ④ D (不可) となった科目を再履修した場合は、再履修した当該科目の対象学期の対象科目に含め、GPA を算出する。
- ⑤ 前項の場合、D (不可) となった学期の GPA は変更しない。

[通算の GPA 算出方法]

通算の GPA 算出は、在学中に (評価がでた時点) 履修申請・登録したすべての GPA 対象科目に基づき算出する。

$$\frac{\text{(在学中 (評価が出た時点) に履修登録した GPA 対象科目の最新 GP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{(在学中 (評価が出た時点) に履修登録した GPA 対象科目の単位数) 合計}}$$

- ① GPA は小数点第 3 位を四捨五入し、小数点 2 位までを表示する。

- ② GPA 対象科目で D (不可) は母数に含む。
- ③ 通年科目は後期に含め GPA を算出する。
- ④ 再履修した場合は、1 科目としてカウントする (ダブルカウントはしない)。
- ⑤ 再履修した科目の GPA は、最新の評価に基づく値とする。

(GPA 計算例)

科目名	単位	単位	ポイント数
基礎演習	1	A	1×3.0=3.0
ボランティア	2	S	2×4.0=8.0
英語	2	D	2×0.0=0.0
情報処理	2	B	2×2.0=4.0
運動学実習	2	P	1×3.0=3.0
	合計 8 単位		合計 18.0 ポイント

GPA 値 = 18 ÷ 8 単位 = 2.25

(取消期間)

履修登録後に取消期間を設定する。期間内に申請をして取消された科目は GPA には算入しない。ただし、期間内に取り消しをせず授業回数の 3 分の 1 (一部例外あり) を超えて欠席した場合は「D」(失格)となる。

(GPA 評価の妥当性)

[評価基準]

- ① 評価平均を 55~70 点とする。
- ② S は、15%未満とする。
- ③ A 以上を 35%未満とする。
- ④ 合否科目に関しては、その割合は問わない。

\*尚、web による成績入力時に、前述の基準を満たさない場合、登録できないシステムとする。ただし、理由を記し、正当性が認められた場合、登録可能とする。

客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html">http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html</a>
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学は、「仁」を建学の精神とし「知行合一」を教育理念としている。教育目標である「質実剛健」「敬愛」「至誠」「忠恕」に基づき、以下の能力を身に付けた学生に学位を付与する。

1. 多角的視野で考察するための社会や文化、自然や環境に関する基礎的知識や技法を習得している。

[知識理解]

社会を構成する個々人の様々な行為の動機や原則は、所属する集団や環境によって異なり、現代社会においてはそれらも急速に変化している。本学では、知行合一の理念のもと、様々な社会の動向や人々の行動に関わる原理や道理に関する知識を蓄え、それらを学生個々人の知恵として発揮できる素地を陶冶する。

2. 社会の様々な事象に関する情報を分析し、他者と協力して健康で文化的な生活を営むための方法や、生活の質を高める方法を考案、実践できる。

[汎用的技能]

社会人としての生き方や社会生活の営みにおいて、他者と協力して物事を成すには「道徳」や「倫理」という行為の規範が必要である。本学では「質実剛健」を精神的支柱に備えた人間形成を目標とする。そして、専門的知識や技術の修得を前提に、自らの日常生活で起こる様々な事象を正確に捉える情報収集能力や分析能力など、より豊かな生活を実現させる能力を涵養する。

3. 学際的探求の意義を理解し主体的に学習を続け、高い倫理観と責任感を持ち他者と協力して仕事や研究を進める意欲と、真心をもって研究や仕事の成果を社会に還元する態度を身に付けている。

[態度・志向性]

本学は、「仁」の精神を体現できる人材、すなわち、「敬愛」という地域社会への敬意と深い思いやりをもち、真心を具現化できる素養を持つ人材を養成する。地域社会でのより善いチームワークや感化をもたらす「至誠の人」という高い志を体現する意欲と態度を身に付けることを目標とする。したがって、学問へのあこがれ（憧憬）、知識欲、探究心、創作のよろこびを地域住民と共有し、卒業後も継続できる学生の知識への意欲や気力を養う。

4. 自らが置かれている社会や生活に関する課題について知識・技能・態度等を総合的に活用し、その課題を主体的に解決する能力を身に付けている。

[統合的な学習経験と創造的思考力]

多文化・異文化共生社会の実現に向けて必要な能力とは、社会や組織、環境に関わる基本的な知識や実践の理論を身に付けた上で、倫理的規範と創造的思考に基づく具体的解決のあり方を示せる能力である。本学では、「忠恕」の教育目標のもと、自らの良心に忠実で思いやり深い人間として地域社会の振興に寄与できる行動力と創造力を養う。地域での様々な実践体験や住民との関わり、論理的思考や数量的スキルなどを駆使し自らの問いを探求する過程を通して知識・技能・態度の統合を目指す。

本学卒業に関する要件の適用については、学則第 33 条に定めるとおり、修業年限以上在籍し、所定の授業科目および単位を修得した者について、教授会の議を経て、学長が卒業を認定している。

専門職者の養成を目指し、その教育課程が文部科学省及び厚生労働省令等で定められており、学年別の授業科目数の配分も適切に設定されている。年次別履修科目の上限を年間 50 単位とし、定期的なカリキュラム改編を通して、年次別の履修科目の適正化を図っている。

各学部の卒業要件（単位数）は、次の通りである。

#### 医療福祉学科(単位)

学科	医療福祉学科			
	介護福祉	福祉総合	介護福祉士 実践	医療事務・ 秘書
基礎教養科目(必修)	11	10	2	5
基礎教養科目(選択)	1	5	0	7

<b>専門科目(必修)</b>	61	63	68	64
<b>専門科目(選択必修)</b>	5	5	0	0
<b>専門科目(選択)</b>	30	56	26	26
<b>合計</b>	124	124	124	124

  

卒業の認定に関する 方針の公表方法	学生募集要項 <a href="http://www.shoken-gakuen.jp/university/admission/policy_diploma.html">http://www.shoken-gakuen.jp/university/admission/policy_diploma.html</a>
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	群馬医療福祉大学短期大学部
設置者名	学校法人 昌賢学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.shoken-gakuen.ac.jp">www.shoken-gakuen.ac.jp</a> →群馬医療福祉大学
収支計算書又は損益計算書	→大学案内→基本情報公開→財務状況にて
財産目録	すべての項目を開示
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画)	対象年度:令和2年度)
公表方法:令和2年度よりホームページに掲載予定	
中長期計画(名称:中長期計画(5ケ年))	対象年度:令和2年度～令和6年度)
公表方法:令和2年度よりホームページに掲載予定	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="http://www.shoken-gakuen.jp/">www.shoken-gakuen.jp/</a> ホームページの最後にある評価機関の認証マークをクリックする。
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="http://www.jaca.or.jp/">www.jaca.or.jp/</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 群馬医療福祉大学短期大学部
教育研究上の目的(公表方法:学生募集要項 <a href="http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html">http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html</a> )

(概要) 本学は、教育基本法及び建学の精神の理念とするとともに従い、社会福祉を科学的に教授・研究し、高い知識と優れた技能を併せ備えた有能にして社会的に有為な人材を育成することを目的とし、社会福祉の発展に直接寄与することを使命とする。

【短期大学部医療福祉学科】

福祉・医療を科学的に教授・研究し、高い知識と優れた技能を併せ備えた有能にして社会的に有為な人材を育成することを目的とし、介護福祉の分野及び医療事務の分野においてその発展に直接寄与することを使命とする。

卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ 学生募集要項  
[http://www.shoken-gakuen.jp/university/admission/policy\\_diploma.html](http://www.shoken-gakuen.jp/university/admission/policy_diploma.html))

(概要)

短期大学部 医療福祉学科 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

[知識・理解]

1. 介護・福祉・医療事務に関する知識を修得し、生活上の課題を多面的に考察できる。

[汎用的技能]

2. 人の思いを引き出し、分析した上で本人の望む生活の実現に貢献できる力を有している。

[態度・志向性]

3. 本学の仁の精神に則り、人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。

4. 地域や人の変化に対する知識を自ら学び、地域に還元する意欲を持っている。

[統合的な学習経験と創造的思考力]

5. 多職種の専門性を理解し、自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

介護福祉コース ディプロマ・ポリシー

本短期大学部では、所定の単位を修得し、全学ディプロマ・ポリシーと以下に示す諸能力を有する者に対し、短期大学士の称号を授与する。

[知識・理解]

1. 介護の現場が求める介護福祉士としての基礎知識を習得している。

2. 介護を必要とする人に関する基礎知識 (心身の状況に応じた介護、心身のしくみ、関連する諸制度) を有している。

[汎用的技能]

3. 介護を必要とする人及びその家族の個別ニーズを理解して、それを介護実践できる力を有している。

4. 他職種と連携を取り介護を必要とする人その家族ニーズの満足度を高める力を有している。

[態度・志向性]

5. 利用者及びその家族の個別ニーズに沿った個別援助計画を作成し、それを実践できる。

6. 利用者及びその家族の満足度を高めることができる力を持つことができる。

[統合的な学習経験と創造的思考力]

7. 介護を必要とする人及びその家族の個別のニーズを理解するための思考、判断力を有している。

8. 介護福祉士に必要な倫理観を備え、介護現場で必要とされる思考、判断力を有している。

介護福祉士実践コース ディプロマ・ポリシー

本短期大学部では、所定の単位を修得し、全学ディプロマ・ポリシーと以下に示す諸

能力を有する者に対し、短期大学士の称号を授与する。

[知識・理解]

1. 介護の現場が求める介護福祉士としての基礎知識を習得している。
2. 介護を必要とする人に関する基礎知識（心身の状況に応じた介護、心身のしくみ、関連する諸制度）を有している。

[汎用的技能]

3. 介護を必要とする人及びその家族の個別ニーズを理解して、それを介護実践できる力を有している。
4. 他職種と連携を取り高齢者や障害を持っている人その家族ニーズの満足度を高める力を有している。

[態度・志向性]

5. 利用者及びその家族の個別ニーズに沿った個別援助計画を作成し、それを実践できる。
6. 利用者及びその家族の満足度を高めることができる力を持つことができる。
7. 介護実践活動を通じて得た経験から介護福祉士の役割や責務、資質向上に対するより大きな意欲を持っている。

[統合的な学習経験と創造的思考力]

8. 介護を必要とする人及びその家族の個別のニーズを理解するための思考、判断力を有している。
9. 介護福祉士に必要な倫理観を備え、介護現場で必要とされる思考、判断力を有している。

福祉総合コース ディプロマ・ポリシー

本短期大学部では、所定の単位を修得し、全学ディプロマ・ポリシーと以下に示す諸能力を有する者に対し、短期大学士の称号を授与する。

[知識・理解]

1. 介護の現場が求める介護福祉士としての基礎知識を習得している。
2. 介護を必要とする人に関する基礎知識（状況に応じた介護、心身のしくみ、関連する諸制度）を有している。
3. 福祉制度を必要とする人の基本的ニーズに関する基礎知識を有している。

[汎用的技能]

4. 介護を必要とする人及びその家族の個別ニーズを理解して、それを介護実践できる力を有している。
5. 他職種と連携を取り高齢者や障害を持っている人その家族ニーズの満足度を高める力を有している。

[態度・志向性]

6. 利用者及びその家族の個別ニーズに沿った個別援助計画を作成し、それを実践できる。
7. 利用者及びその家族の満足度を高めることができる力を持つことができる。
8. 社会福祉学を学ぶ者として、他職種との連携及び社会資源の必要性が理解できるような知識や技術の向上を図る意欲を持っている。

[統合的な学習経験と創造的思考力]

9. 介護を必要とする人及びその家族の個別のニーズを理解するための思考、判断力を有している。
10. 介護福祉士に必要な倫理観を備え、介護現場で必要とされる思考、判断力を有している。

医療事務・秘書コース ディプロマ・ポリシー

本短期大学部では、所定の単位を修得し、全学ディプロマ・ポリシーと以下に示す諸

能力を有する者に対し、短期大学士の称号を授与する。

[知識・理解]

1. 医科歯科系事務職の現場が求める人材としての基礎知識を習得している。
2. 医療を必要とする人や病院・診療所に関する基礎知識（報酬算定、診療情報、医療関係法規）を有している。

[汎用的技能]

3. 医科歯科系事務職の現場で求められる役割や必要な診療報酬や診療の情報、を理解し、それを医科歯科系事務の実務で実践できる力を有している。
4. 他職種と連携を取り、対象者（患者やその家族ら）の満足度を高め、医科歯科系の医療現場に貢献できる力を有している。

[態度・志向性]

5. 常に対象者（患者やその家族）や携わる業務に興味・関心を払い、その人たちの満足度を高めることや、業務の質の向上に対する意欲を持ち続け、それを実現できる力を有している。

[統合的な学習経験と創造的思考力]

6. 医科歯科系事務職に必要な診療情報、医療関係法規に基づく適切な思考・判断力を有している。
7. 医療を受ける人及びその家族らの個別のニーズを理解するための思考、判断力を有している。
8. 医療に携わることに必要な倫理観を備え、医科歯科系職に求められる思考、判断力を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生募集要項

[http://www.shoken-gakuen.jp/university/admission/policy\\_curriculum.html](http://www.shoken-gakuen.jp/university/admission/policy_curriculum.html))

(概要)

介護福祉コース・介護福祉士実践コース カリキュラム・ポリシー

群馬医療福祉大学短期大学部 医療福祉学科 介護福祉コース及び介護福祉士実践コースでは、建学の精神と教育理念に基づき、介護福祉分野で活動する介護福祉士として介護を必要とする方々に貢献できる人材を育成するため、以下のポリシーに基づいてカリキュラムを編成する。

- (1) 介護を必要とする人やその家族の思い（ニーズ）に共感できるようになるための科目を設ける。
- (2) 介護を必要とする人に共通する基礎的な介護の基礎的知識・技術を習得できる科目を設ける。
- (3) 根拠ある介護を理解し、提供できるようになるための科目を設ける。
- (4) 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させる意義を理解できる科目を設ける。
- (5) 他職種の理解や多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる科目を設ける。
- (6) 介護に関連する社会保障制度、諸施策についての基本的理解ができる科目を設ける。
- (7) 介護を必要とする人の個別性を把握し、個別援助計画を立案・実施できるようになる科目を設ける。
- (8) 的確な記録を行うことができるようになる科目を設ける。
- (9) 円滑なコミュニケーションの取り方が理解できる科目を設ける。
- (10) 介護を必要とする人の尊厳や人権擁護、職業倫理の視点を身につけることができる科目を設ける。

※ 「介護福祉士養成課程における資格取得時の到達目標」（厚生労働省，2009）をもとに作成

#### 福祉総合コース カリキュラム・ポリシー

群馬医療福祉大学短期大学部 医療福祉学科 福祉総合コースでは、建学の精神と教育理念に基づき、介護福祉分野で活動する介護福祉士として介護を必要とする方々に貢献できる人材を育成するため、以下のポリシーに基づいてカリキュラムを編成する。

- (1) 介護を必要とする人やその家族の思い（ニーズ）に共感できるようになるための科目を設ける。
- (2) 介護を必要とする人に共通する基礎的な介護の基礎的知識・技術を習得できる科目を設ける。
- (3) 根拠ある介護を理解し、提供できるようになるための科目を設ける。
- (4) 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させる意義を理解できる科目を設ける。
- (5) 他職種の理解や多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる科目を設ける。
- (6) 介護に関連する社会保障制度、諸施策についての基本的理解ができる科目を設ける。
- (7) 介護を必要とする人の個別性を把握し、個別援助計画を立案・実施できるようになる科目を設ける。
- (8) 的確な記録を行うことができるようになる科目を設ける。
- (9) 円滑なコミュニケーションの取り方が理解できる科目を設ける。
- (10) 介護を必要とする人の尊厳や人権擁護、職業倫理の視点を身につけることができる科目を設ける。
- (11) 福祉制度を必要とする人の基本的ニーズを理解できる科目を設ける。
- (12) 社会資源の必要性が理解でき、その知識や技術の向上を図る科目を設ける。

※ 「介護福祉士養成課程における資格取得時の到達目標」（厚生労働省，2009）をもとに、福祉総合コースディプロマポリシーに基づく項目を加味して作成

#### 医療事務・秘書コース カリキュラム・ポリシー

群馬医療福祉大学短期大学部 医療福祉学科 医療事務・秘書コースでは、建学の精神と教育理念に基づき、介護福祉分野で活動する介護福祉士として介護を必要とする方々に貢献できる人材を育成するため、以下のポリシーに基づいてカリキュラムを編成する。

- (1) 医療機関を利用する人やその家族の対応に必要な知識・技術を習得できる科目を設ける。
- (2) 診療、介護、調剤等の報酬算定に必要な知識・技術を習得できる科目を設ける。
- (3) 歯科診療に関する用具等の基礎を理解し、歯科診療の補助ができるようになるための科目を設ける。
- (4) 医療現場で連携する他職種の理解や協働の必要性を理解できる科目を設ける。
- (5) 医療等に関連する社会保障制度、諸施策についての基本的理解ができる科目を設ける。
- (6) 医療を必要とする人が利用する機関での実践活動を理解するための科目を設ける。
- (7) 的確な記録を行うことができるようになる科目を設ける。
- (8) 円滑なコミュニケーションの取り方が理解できる科目を設ける。
- (9) 電算化された報酬算定のしくみを理解できる科目を設ける。
- (10) 医療を必要とする人の尊厳や人権擁護、職業倫理の視点を身につけることができる科目を設ける。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生募集要項  <a href="http://www.shoken-gakuen.jp/university/admission/policy_admission.html">http://www.shoken-gakuen.jp/university/admission/policy_admission.html</a>）</p> <p>（概要）医療や福祉のサービスを必要とする方に対し、おもいやりの「心」とコミュニケーションを大切にして、専門的な知識と技術をもとに直接支援する仕事がしたい人に適した学科。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者、障がい者の生活援助に関心があり、介護福祉士資格取得を目指そうとする人。</li> <li>2. 医療の現場で貢献したいという強い意志を持ち、医療秘書・医療事務の資格を目指そうとする人。</li> <li>3. 大学で学ぶ専門性と実習で学ぶ実践力を身に付けて即戦力になりたい人。</li> <li>4. 少子高齢社会を認識し、新たな医療・福祉社会の構築のために地域社会でも指導的役割を果たしていこうとする意欲のある人。</li> <li>5. 学習への目的意識をより明確化させるためにボランティア活動を経験している人。</li> </ol>
--

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： <a href="http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html">http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html</a>
---

## ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
短期大学部	—	5人	0人	2人	5人	0人	12人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		0人					1人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）				公表方法： <a href="http://www.shoken-gakuen.ac.jp">www.shoken-gakuen.ac.jp</a> 大学案内 →基本情報公開→専任教員一覧			
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>（1） FD・SD委員会を中心に、マクロレベルでは年間6回の全学教職員全員参加の集合研修を実施している（年始の会①、9月の3回の研修（内1回は「教職員研究発表会」②、③、④、年始の会⑤、非常勤講師説明会⑥）というサイクル）。</p> <p>（2） これまでに実施した研修テーマは、「シラバス改善ワークショップ」「生き生きとした授業の実現のために・アクティブラーニング」「インストラクショナル・デザインのすすめ」「学習を評価すること：評価の基本と実践について」「評価の第三サイクルに向けて」など、シラバスや授業改善を目指す研修を中心に実施。ここ数年は外部の専門家を呼んで、内容の濃い研修になるよう力を注いでいる。</p> <p>（3） その他学生指導力の向上を目的に、「ハラスメント研修」「ダイバーシティとLGBT学生等への対応」「SNS対策」等をテーマにSDの集合研修も実施してきた。</p> <p>（4） 今年は入学前準備教育において連携している東進ハイスクールと協力し、学習成果の可視化などの課題を前提に準備中。（「（本学）大学生の学力をどう測り、どう向上させるか」などのテーマを予定）。また、学生参加型のFD活動の仕組みづくりを目的に、代表学生による意見聴取なども行った。</p> <p>（5） 「コメントカード」「シャトルカード」などのリフレクションのためのシートを全教科・全教員が使い実施することを推進しているが、その他ネット等何らかの新しい形で意見を吸い上げる仕組みもつくるため、</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
短期大学部	80人	48人	60%	160人	105人	65%	0人	0人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	80人	48人	60%	160人	105人	65%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
医療福祉学科	35人 (100%)	17人 (48.6%)	18人 (51.4%)	0人 (0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	35人 (100%)	17人 (48.6%)	18人 (51.4%)	0人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 群馬医療福祉大学・群馬医療福祉大学診療情報管理士専攻科・(福)平成会・在宅かんわケア大地・ (医)樹心会たまむら・(福)ほたか会川場春光園・(福)明光会清和荘・(株)三英堂商事 家族の家ひまわり館林・(福)あんなか福祉会・明嶺荘・(福)前橋あそか会・(福)二之沢真福会 ルネス前橋・愛老園・渋川中央病院・(福)恩賜財団済生会宇都宮病院・(医)鶴谷会鶴谷病院・ (医)社団三思会くすのき病院・一般社団法人 熊谷市歯科医師会戸谷歯科医院・石井病院 (医)済恵会 須藤病院・長野医療生活協同組合 長野中央病院				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
医療福祉学科	40人 (100%)	35人 (87.5%)	0人 (0%)	5人 (12.5%)	0人 (0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	40人 (100%)	35人 (87.5%)	0人 (0%)	5人 (12.5%)	0人 (0%)
(備考)					

## ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 本学の教育課程は次のような授業科目の区分によって編成されている。授業科目区分は各学部で名称は異なるものの、「教養科目」と「専門科目」及び「資格関係科目」に分けられ、順序立てて履修できるように、科目レベルの設定または年次配当がなされ、体系的に学習ができるように配慮している。

ディプロマポリシーの具現化を念頭に、本学の特色と独自性を確保した教育課程を編成した。教授法の工夫では、授業目的に応じて講義・演習・実習といった多様な形式をとっている。演習科目では、グループワークにおいてリーダーシップ・メンバーシップ、学生の主体性が発揮できるように、コミュニケーション能力や表現力が向上できるように発表の機会を多く設定している。またクラス担任制による少人数教育・学習指導を行っている。

### a. 「教養科目」

「教養教育」は2年間を通じて人間形成の基礎を身に付けるため、大きく分類して「基礎・総合演習」「総合教養」「外国語」「健康・スポーツ」「情報処理」の5区分にわたる教科を学び、総合力を養う。上級学年にいくほど少なくなるように配置している。基礎的な知識技能や教養、医療・福祉に関する基礎的な知識技能が修得できるように設定されている。また、医療・福祉・教育に関する基礎的な知識技能が修得できるよう、総合大学の特徴を活かした、社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部と短期大学部の医療福祉学科を加えた3学部1学科による「チームケア入門Ⅰ・Ⅱ」と科目を設定、開講している。

### b. 「専門科目」

「専門科目」は共通部分では基礎科目的な性質を持ち、1年次で身に付けた基礎的な知識を土台に、専門分野を修得する上で基礎となる内容を学ばせる。さらに、専門性を養うための分野を学ぶと同時に、実技を含め進路に沿った科目を履修し、専門知識と技術をより高める。

### c. 「資格関係科目」

その他、各種資格取得に関わる科目が設定され配当されている。資格取得のための実習は原則として2年次を中心に実施し、実習計画に基づいて指導が行われている。

各授業科目については、大学設置基準「第6章、教育課程」第20条（教育課程の編成方法）に定められているとおり、必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成している。各授業にはシラバスが準備され、学生はシラバスを参考にして履修登録を行っている。シラバスは、共通の形式で記入され事前に必ず教務カリキュラム委員会によってチェックされる仕組みとなっている。

## ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

### (概要)

本学は、「仁」を建学の精神とし「知行合一」を教育理念としている。教育目標である「質実剛健」「敬愛」「至誠」「忠恕」に基づき、以下の能力を身に付けた学生に学位を付与する。

1. 多角的視野で考察するための社会や文化、自然や環境に関する基礎的な知識や技法を習得している。
2. 社会の様々な事象に関する情報を分析し、他者と協力して健康で文化的な生活を営むための方法や、生活の質を高める方法を考案、実践できる。
3. 学際的探求の意義を理解し主体的に学習を続け、高い倫理観と責任感をもち他者と協力して仕事や研究を進める意欲と、真心をもって研究や仕事の成果を社会に還元する態度を身に付けている。
4. 自らが置かれている社会や生活に関する課題について知識・技能・態度等を総合的に活用し、その課題を主体的に解決する能力を身に付けている。

本学卒業に関する要件の適用については、学則第33条に定めるとおり、修業年限以上在籍し、所定の授業科目および単位を修得した者について、教授会の議を経て、学長が卒業

を認定している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
短期大学部	医療福祉学科	124 単位	④・無	50 単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 : <a href="http://www.shoken-gakuen.jp/university/">http://www.shoken-gakuen.jp/university/</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : <a href="http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/fd.html">http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/fd.html</a> <a href="http://www.shoken-gakuen.jp/pdf/disclosure/satisfaction_29.pdf">http://www.shoken-gakuen.jp/pdf/disclosure/satisfaction_29.pdf</a>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
短期大学部	医療福祉学科	600,000 円	150,000 円	350,000 円	その他は「施設設備費」、「施設維持費」各 130,000 円、「実験実習費」90,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>「概要」 「クラス担任制」          全学部にてクラス担任制を取り入れており、個別の面談や出欠確認、進路指導、保護者との連携、学生生活全般のサポートを行い、学生が充実した生活を送り、学問を修めることに集中できる環境を整えるための相談・指導を担っている。</p> <p>「資格取得における国家試験等試験対策」          入学後からゴールを見据え、1年次より国家試験をはじめとする資格試験を意識した講義及び講座を取り入れ、試験の特徴や具体的な対策、勉強方法、学習習慣を早い段階で身につけ、基礎を固めている。その上で各種試験対策講座にて試験に向かう姿勢を1年次から培っている。さらには月例テストを月1回実施し、自分の実力を確認すると同時に自分の課題を明らかにし、個別の対策を立てている。そこに、講義・講座担当教員とクラス担任が連携を図り、個別のサポート体制を整えている。</p> <p>「地域貢献活動」          高等教育機関として地域社会へ貢献することと同時に学生の立場から何ができるかを考え、地域社会をしっかりと体感することができる。そして、学内による講義を確かなものにするために、地域で考え、経験することにより課題を見つけ出すことができる。これらのことを学内に持ち帰り、課題に対してのアプローチを吟味する。やがて、より多くの経験を積むこ</p>
--

とができ、スキルアップにつなげ人間として成長できる場を、行政はじめ地域の自治会等と連携した環境を整えている。

#### 「学生満足度調査」

年1回学生のニーズを把握し、学生がより充実した生活を送ることができるための学生満足度調査を行っている。この調査により、学生の現状を把握し、教職員が情報を共有・分析し、改善に向け、FD・SD研修で全教職員が課題に取り組み、さらには短期、中・長期計画を定め、改善のための取り組みを行っている。

#### 「入学前指導」

全学部にて、入試合格者に対し入学前指導を実施している。  
先輩やクラスメイトとなる学友との親睦を図り、入学後に学習環境に早く慣れてもらうために、全3回実施している。  
全学部で共通した目標を（最終的に目指す卒業時のコア・コンピテンシーを念頭に置いた上で）「大学の中に人間関係を構築する」、「大学という場を理解する」、「大学生活に夢と希望を広げる」、「受動的な学習態度から、能動的で自律的・自立的な学習転換を図る」の4つを掲げ、具体的な指導内容を各学部で企画し、効果が上がるよう計画を立てている。  
入学前指導の仕上げ、そして入学後の初年次教育のスタートとして、全学部1年生対象に1泊2日の研修を実施している。

#### 「国際交流」

カナダをはじめフィリピン、インドネシア、中国の大学等と協定を結び、国際的な医療福祉従事者養成を目指す国際看護プログラムや英会話の講義や心理学、看護学、運動学、教育学を通して様々な国の学生と交流を深めている。毎年約50名がこれらの研修に参加し、各国の医療事情や国際福祉について理解を深めている。

### b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）本学は、建学の精神である『仁』に則り、心豊かである人間愛とボランティア精神に溢れた人材を養成し、わが国の医療・福祉・教育の発展に貢献することを主目的としている。これを踏まえ、就職支援年間計画を作成し、実践すると共に、ボランティア活動・環境美化活動・現場実習を意識した指導にあわせ、礼儀や挨拶、身だしなみ等を日常的に指導している。

進路選択については学生個々にあわせ、キャリアコンサルタント及びキャリアカウンセラーなどの有資格者による就職相談等を行い、クラス担任と就職センターが連携し、学生自身の希望に添った進路決定まで結びつくような体制を整えている。その結果、極めて高い就職率を例年維持しており、就職先に関しては医療・福祉・教育関係の専門職が大半を占め、就職率としては100%である。

また、既卒者に対しても同様に、有資格者による就職相談、就職斡旋・支援、ホームページによる求人紹介等も行っており、卒業後も就職センターを自由に利用できる。

### c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）学校保健安全法に基づく健康診断や健康相談、保健指導、応急処置だけではなく、学生のこころの問題を教育の一環として、全ての教職員と専門家であるカウンセラーとの連携・協働によって支援している。学生はオフィスアワー等、いつでも担当教員と相談できるほか、学生課・健康管理室等にもいつでも相談できることを履修要項や学内ナビゲーション、掲示物等で周知している。また、学生の健康管理に関すること及び健康保持に関することは「健康管理委員会」で、障害のある学生への支援は「障害のある学生等の支援会議」で審議している。個人情報に配慮しながらも学生の安全と利益を優先し、可能な範囲で情報を教員と事務局が共有・協働することで、支援の充実を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://www.shoken-gakuen.jp/university/about/disclosure/basic.html>